

路地を活かしたまちづくりシンポジウム（於、碧南市）の概要報告

05年12月11日（日）、碧南市で表記のシンポジウムが行なわれた。主催は、大浜地区歩いて暮らせる街づくり推進委員会。本協議会から、神楽坂の山下馨さんと司波が招かれたパネリストを努めた。

・碧南市の概況と路地の街の成立等

碧南市は知多半島と衣浦湾を挟んだ対岸の都市で、県都名古屋市から南約40kmの位置にある。人口は約7万人、臨海工業地帯を抱え、財政的には豊かである。同市の臨海部はほとんどが埋立地で市域面積の37%を占めるに至っている。大浜地区は、こうした埋め立てが行なわれる前は、海に面した漁業、商業の街で、かつての海岸線と直角方向に物流と生活を支える幹線の通路が発達し、街の骨格を形成した。横方向に幹線通路の枝が延び、網の目のような路地を基盤とする街ができ上がった。

12月11日の午前、市の担当者や建築士会のまちづくり班の方々に、この路地の街を案内していただいた。かつての海岸線の位置を教えてもらうと、海に依拠した街の生き活きた雰囲気は偲ばれた。寺が多く分布しているが、信仰を核にした小コミュニティが路地によって結び付けられていたようだ。空家や空き地が散見され、少しずつ荒廃が進んでいるように見受けられた。

この街の基盤となっている路地を大切にしながら、活性化を図ろうというのが、主催団体の活動目標で、現在までに路地の実体について詳細調査を行ってきた。

・シンポジウムの概要

午後は、文化会館で次のようなプログラムでシンポジウムが実施された。

1．主催者挨拶

上記推進委員会委員長で、地場産業である味噌蔵のオーナーの石川八郎右衛門さんが、歴史ある路地を活かすまちづくりの重要性等を交えて開会挨拶。

2．路地の佇まいの保全を巡る動向

愛知県建築指導課の川端寛文さんから、地区計画等を活用しての路地保全の手法等の紹介があった。

3．全国の取り組み事例の紹介

全国路地のまち連絡協議会世話人として司波が、世界と日本の路地の実体、協議会の設立経緯、活動歴等を紹介。

NPO粋なまちづくり倶楽部事務局長の山下馨さんが、神楽坂の路地の姿、路地をまもるためのNPOの取り組みを紹介。

4 . 大浜地区の路地の魅力

県建築士会碧南支部長梶川博司さんが、路地の実態調査の成果を報告。

5 . パネルディスカッション

コーディネーターは、「コンパクトシティ」の著者で、名城大学教授の海道清信さん。

パネリストは、山下馨さん、梶川博司さん、石川八郎右衛門さん、推進委員会の両副委員長佐藤義行さん、石川唯司さん、それと司波の6名。

約1時間半、大浜地区の路地の特徴、防災問題、老朽化した建築の更新と新しい住民の導入、他の路地のある街との連携強化等について意見を交わした。